

社業の発展を通じ社会に貢献する

2022年3月期 第2四半期 決算説明資料

変革と挑戦 強く価値ある会社へ

西華産業株式会社 (東証1部 証券コード8061)



SSC 西華産業株式会社 SEIKA GROUP

1

皆様、こんにちは。社長の櫻井でございます。

皆様方には、平素より西華産業にご関心をお寄せ頂き、誠にありがとうございます。

2022年3月期 第2四半期の決算説明会につきましても、前期末と同様に動画の配信とさせて頂くことに致しました。

本動画を通じまして、当社についてご理解を深めていただければ幸いです。

それでは、始めさせていただきます。

CONTENTS

01

2022年3月期
第2四半期
連結決算概要

02

2022年3月期
連結業績予想

03

トピックス

04

参考資料

今回の決算説明では、ご覧の項目について説明致します。



01

2022年3月期 第2四半期 連結決算概要



2022年3月期 第2四半期 連結決算概要

	2021年3月期 2Q累計実績	2022年3月期 2Q累計実績	増減率 (前年同四半期比)
取扱高	70,935 百万円	69,027 百万円	△2.7 %
売上高	33,730 百万円	40,452 百万円	+19.9 %
営業利益	953 百万円	1,304 百万円	+36.8 %
経常利益	1,098 百万円	1,315 百万円	+19.8 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	530 百万円	698 百万円	+31.6 %

	2021年3月期 2Q累計実績	2022年3月期 2Q累計実績	増減率 (前年同四半期比)
受注高	36,996 百万円	41,667 百万円	+12.6 %
受注残高	57,282 百万円	62,141 百万円	+8.5 %

4ページ目をご覧ください。

こちらはの当第2四半期の損益計算書の概要です。
単体業績は、顧客の設備投資の延期等、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、国内外の関係会社業績が寄与した結果、前年同期を上回り、ご覧の通り増収増益となりました。

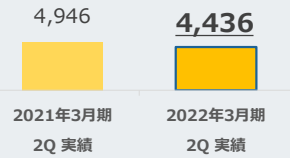
また、受注高は416億円、受注残高は621億円となり、いずれも前年同期に比べ増加致しました。



セグメント別事業概要 (売上高)

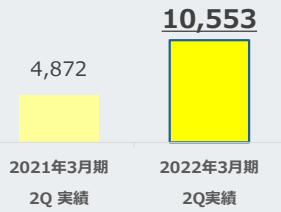
電力事業

(百万円)



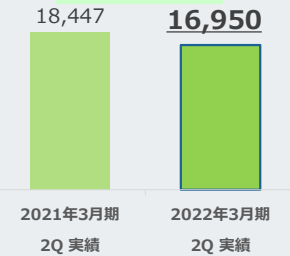
化学・エネルギー事業

(百万円)



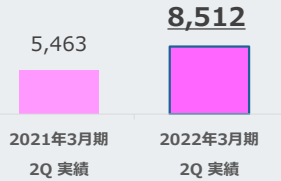
産業機械事業

(百万円)



グローバル事業

(百万円)



- ◆ 電力事業
 - ・火力発電設備に係る定期検査工事、設備更新等の延期の影響
- ◆ 化学・エネルギー事業
 - ・前期より連結子会社化したセイカダイヤエンジン(株)の売上が寄与
- ◆ 産業機械事業
 - ・飲料会社向け新設バイオマス発電設備の売上が寄与
 - ・新型コロナウイルス感染症による設備投資延期の影響
- ◆ グローバル事業
 - ・中国向け繊維原料の販売価格上昇
 - ・西擘貿易(上海)有限公司の大口排水処理設備の売上が寄与

次に、セグメント別売上の実績はご覧の通りです。

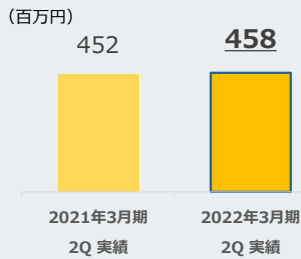
電力事業と産業機械事業は概ね前年同期と同様の実績でありました。

化学・エネルギー事業は、前期より連結子会社化したセイカダイヤエンジンの売上が寄与し倍増となり、グローバル事業は、中国向け繊維原料の販売価格の上昇などにより大幅に増加致しました。

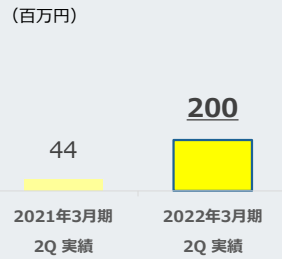


セグメント別事業概要 (セグメント利益)

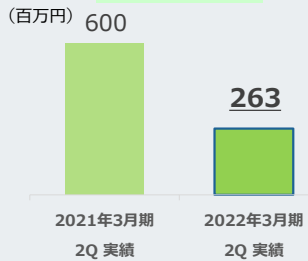
電力事業



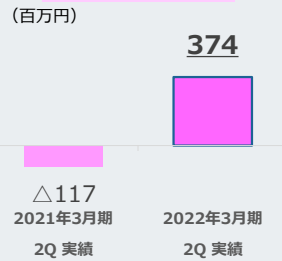
化学・エネルギー事業



産業機械事業



グローバル事業



- ◆ 電力事業
 - ・ 前期並みに推移
- ◆ 化学・エネルギー事業
 - ・ 前期より連結子会社化したセイカダイヤエンジン(株)の業績が寄与
- ◆ 産業機械事業
 - ・ 中国向け一部取引における費用負担
- ◆ グローバル事業
 - ・ 欧米、中国の関係会社業績が寄与
 - ・ 前期にタイのプリント基板製造・販売会社に係る事業整理が完了

セグメント利益についてご説明致します。

電力事業は、前期並みの 4 億 5,800 万円となりましたが、産業機械事業は、中国向けの一部取引において費用負担が発生したため、2 億 6,300 万円と減少致しました。

なお、化学・エネルギー事業やグローバル事業は、売上の増加に伴い大幅に増加致しました。



セグメント別事業概要

(百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2021年 2Q累計 実績	2022年 2Q累計 実績	増減額	2021年 2Q累計 実績	2022年 2Q累計 実績	増減額
電力事業	4,946	4,436	△510	452	458	+6
化学・エネルギー 事業	4,872	10,553	+5,681	44	200	+156
産業機械事業	18,447	16,950	△1,496	600	263	△337
グローバル事業	5,463	8,512	+3,048	△117	374	+491
合計	33,730	40,452	+6,722	979	1,296	+316

こちらは、先程ご説明しましたセグメント毎の売上高、利益の一覧表であります。ご確認ください。



02

2022年3月期 連結業績予想

続きまして、2022年3月期 通期の連結業績予想について
ご説明します。



2022年3月期 連結業績予想

	2021年3月期 実績	2022年3月期 通期予想	増減率（前期比）
取扱高	136,273 百万円	130,000 百万円	△4.6 %
売上高（注）	— 百万円	88,500 百万円	—
営業利益	2,581 百万円	2,850 百万円	+10.4 %
経常利益	2,906 百万円	3,100 百万円	+6.6 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,721 百万円	1,950 百万円	△28.4 %

（※1）連結業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しております。

（※2）連結業績予想における売上高は、「収益認識に関する会計基準」等に基づいた予想となっております。
なお、当該会計基準を適用しない場合における従来の売上高は「取扱高」として開示いたします。

	2021年3月期 実績	2022年3月期 通期予想	前期比
中間配当	20.00 円	25.00 円	+5.00 円
期末配当	25.00 円	30.00 円	+5.00 円
年間配当	45.00 円	55.00 円	+10.00 円

こちらは、通期の連結業績予想です。

単体は期首予想の通り、新型コロナウイルス感染症や脱炭素化の影響を受けておりますが、国内外の関係会社の業績が堅調に推移しており、

取扱高 1,300億円、

売上高 885億円、

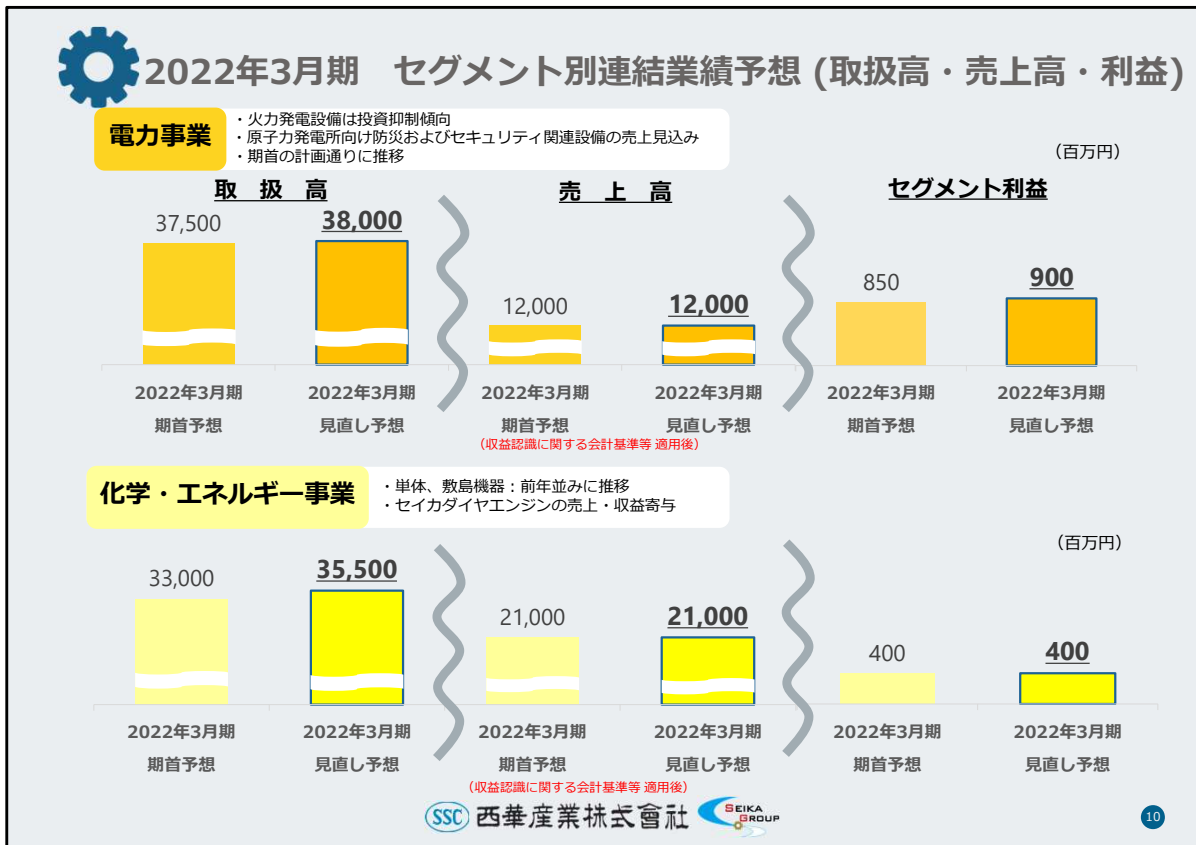
営業利益 28億5,000万円

経常利益 31億円

親会社株主に帰属する当期純利益 19億5,000万円

を予想しており、期首予想から変更はございません。

また、当期の配当金につきましては、先般決定しました中間配当25円の実施に加えて、業績を総合的に勘案し、期末配当30円を加えた年間配当55円と、前期に比べ10円の増配を予定しております。



こちらは、セグメント毎の取扱高、売上高、利益の通期予想です。

現在のところ、各事業とも期首予想通りに推移するものと見込んでおります。簡潔に事業毎にご説明させていただきます。

まず電力事業は、火力発電設備の投資減少があるものの、原子力発電所向け防災およびセキュリティ関連設備の売上が見込まれ、取扱高 380 億円、売上高 120 億円、セグメント利益 9 億円を予想しております。

取扱高、利益とも前年度より 30%程度減少となります。

化学・エネルギー事業は、セイカダイヤエンジンの業績が寄与し、取扱高 355 億円、売上高 210 億円、セグメント利益 4 億円を予想しております。

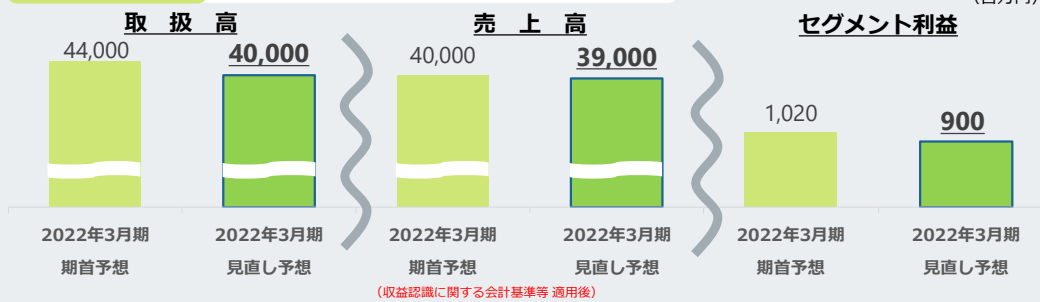
取扱高、利益とも大幅な増加となります。



2022年3月期 セグメント別連結業績予想 (取扱高・売上高・利益)

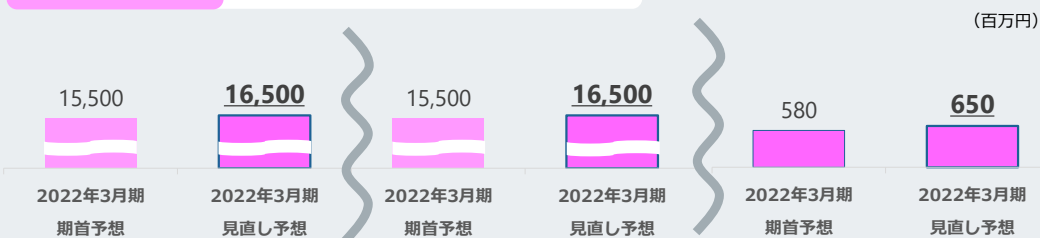
産業機械事業

- ・単体：コロナによる設備投資延期などの影響
- ・日本ダイヤバルブ、西華デジタルイメージ：業績が堅調に推移



グローバル事業

- ・期首の計画通り順調に推移
- ・繊維原料の販売価格上昇



続きまして、産業機械事業は、単体がコロナによる設備投資延期などの影響を受けるものの、日本ダイヤバルブおよび西華デジタルイメージの関係会社業績が堅調に推移し、取扱高 400 億円、売上高 390 億円、セグメント利益 9 億円と、前年並みを見込んでおります。

最後に、グローバル事業は、水中ポンプ販売のTsurumi (Europe) グループの好調な業績と、西擘貿易 (上海) の業績回復により取扱高および売上高 165 億円、セグメント利益 6 億 5,000 万円を予想しております。

取扱高は前年度から 40%ほど増加し、また、タイのプリント基板事業の整理も前期に完了し、利益は大きく黒字に転換する見通しです。



2022年3月期 セグメント別連結業績予想

(億円)

	取扱高			売上高			セグメント利益		
	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 予想	増減額	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 予想	増減額	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 予想	増減額
電力事業	524	380	△144	—	120	—	13.2	9.0	△4.2
化学・エネルギー 事業	284	355	+71	—	210	—	0.8	4.0	+3.2
産業機械事業	436	400	△36	—	390	—	11.7	9.0	△2.7
グローバル事業	116	165	+49	—	165	—	△0.07	6.5	+6.5
合計	1,362	1,300	△62	—	885	—	25.8	28.5	+2.7

(注) 売上高については、「収益認識に関する会計基準」等を適用後の数字であります。

こちらは、セグメント毎の取扱高、売上高および利益予想の一覧表であります。ご確認ください。

なお、売上高につきましては、当期より「収益認識に関する会計基準」を適用しており、前期の売上高相当は「取扱高」として開示をしております。



03

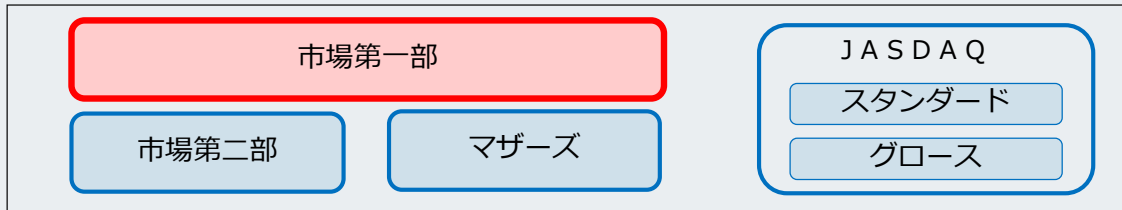
トピックス

13ページ以降は、トピックスについて ご紹介致します。

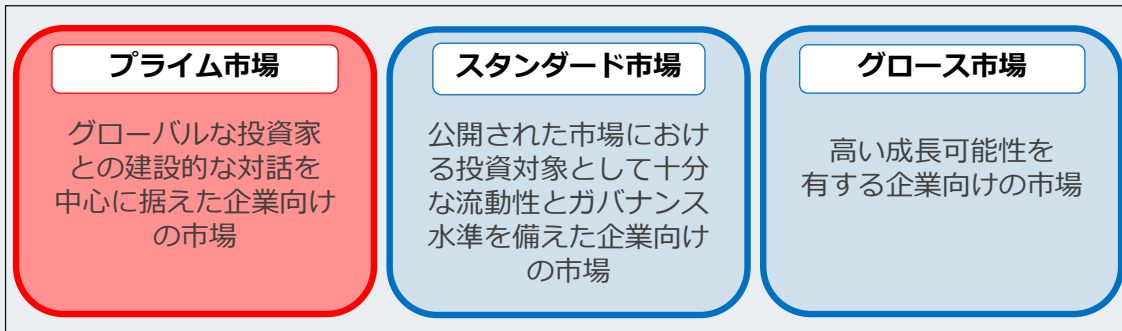


東証新市場区分「プライム市場」選択申請

現在の市場区分



新市場区分 (2022年4月4日~)



(出所) 日本取引所グループの資料を基に西華産業作成

まず最初に、当社が11月5日に公表しました東証新市場区分におけるプライム市場の選択についてご説明致します。

当社につきましては、1961年に東証一部への上場を果たし、社会的な信用を得ると共に多くの株主様のご支援により、これまで成長して参りました。

本年7月、東京証券取引所よりプライム市場適合通知を受領致しました。プライム市場は、投資対象となりうる規模の時価総額を持ち、より高いガバナンス水準を備え、優れた収益基盤を持つ企業を対象にしたものと理解しております。

当社を取り巻くビジネス環境が様変わりする状況にありますが、プライム市場が求める企業像を然りと認識し取り組むことが、当社の持続的な成長と企業価値向上に繋がるものと考え、勇気を持ち選択致しました。

また、当社社員およびグループ社員がプライム市場に属する企業人として各々の仕事の質を高め、働き甲斐を感じ、グループ成長の原動力となると考えております。

プライム市場選択により、機関投資家様や株主様への高い利益還元に繋がられるように邁進して参ります。



レーザー式ガス濃度計

(特徴)

- ・レーザーによるリアルタイム測定
- ・メンテナンスフリー

排ガス中の酸素、一酸化炭素濃度 測定

- 火力発電設備、ごみ焼却設備の最適燃焼によりCO2削減へ
- 計測事業大手の中外テクノスと提携

硫化水素、フッ化水素 測定

- 計測機器最大手の堀場製作所と提携、拡販を開始



15ページ目からは、当社グループが取り組んでおります環境配慮型商品の中より、二つの商品をご紹介します。

まず一つ目は、ノルウェーのNeo Monitor社より輸入販売のレーザー式ガス濃度計です。

火力発電設備やごみ焼却設備の排ガス中の酸素や一酸化炭素濃度を測定し、最適燃焼によるCO2削減に繋がっています。

メンテナンスは計測事業大手の中外テクノスと提携をしております。

また、Neo Monitor社が最近開発をした硫化水素やフッ化水素の濃度計は、計測機器最大手の堀場製作所と提携し、拡販を開始致しました。

顧客の関心が高いNeo Monitor社の商品には、大きな期待をしております。



セイカダイヤエンジンにおける環境への取組み



2021年7月 秋田出張所開設



✓ 洋上風力発電市場への対応

- ・ 秋田県全域の洋上風力発電市場の動向把握並びに情報発信
- ・ 脱炭素社会の実現に向けて洋上風力関連受注を目指す



株式会社ユーグレナと相互連携に合意

- ✓ 漁船用エンジン向け「次世代バイオディーゼル燃料（サステオ）」初供給
- ✓ 「バイオ燃料活用連携」に関する協力関係構築



※ 次世代バイオディーゼル燃料（サステオ）とは？
 使用済み食用油と微細藻類ユーグレナ等を主原料として製造された地球にやさしいバイオ燃料です。
 植物の成長時に二酸化炭素（CO₂）を吸収(光合成)しているため、「カーボンニュートラル」な燃料とされています。



二つ目は、船舶用エンジンを取り扱うセイカダイヤエンジンの取組みについてご紹介致します。

セイカダイヤエンジンは、再生可能エネルギーの洋上風力の建設メッカである秋田市に、建設用作業船・メンテナンス用作業船ビジネスを狙い、本年7月に出張所を開設致しました。既に数々の商談を進めており、収益に寄与するものと考えております。

また、セイカダイヤエンジンでは、ミドリムシ由来の油脂等を原料とするバイオ燃料で有名な株式会社ユーグレナと漁船用エンジン向け燃料供給と活用で提携を致しました。SDGsが掲げる「海の豊かさを守ろう」の理念の実行に繋がり、政府や漁業関係者から注目を集めております。



3D実装技術に特化した研究・開発の需要をターゲット

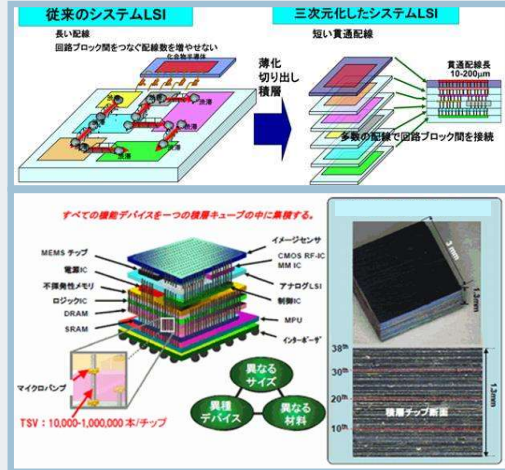
ハイエンドな半導体開発の需要



異種半導体チップを縦方向に積み上げる3D実装技術開発の流れ

当社の取組み

大手半導体メーカーより3D実装技術開発業務を受託



次に、当社が扱う最先端技術商材についてご説明致します。

現在、半導体が世界的に不足しており、製造業に影響が出ておりますが、IoT、5Gインフラ、電動車などの新たな分野では、電子デバイスの進化は欠かせず、それに必要なハイエンドな半導体の開発も求められています。

当社では、従来型とは異なる異種半導体チップを縦方向に積み上げる3D実装技術を開発したベンチャー企業の東北マイクロテックと受託生産の拡販に取り組んでおります。大手半導体メーカーから3D実装技術の開発支援のため、試作品生産から小ロット生産まで受託開発業務を請け負っております。

ストレージメモリーの需要が確実に高まる中、当社の半導体関連ビジネスが大きく開花し、新たな収益となる事を期待しております。



UTドローンによるプラント設備点検



超音波検査機能

足場の設置不要
点検時間・コストの削減

2021年3月からサービス開始
需要も期待も上昇中



トピックスの最後としましては、当社の新たな取組みでありますドローンビジネスについてご紹介致します。

現在ドローンは、例えば撮影ビジネス、配達ビジネスなど様々な分野で活用されています。

当社は、産業用ドローンサービス企業として世界第2位との評価があるテラドローン社と組み、製鉄所のガスホルダーや化学会社のボイラー設備などの構造物の点検サービス事業を展開しております。

従来足場を組み、直接検査を実施しておりましたが、ドローンに超音波機能を搭載することで、検査工程の短縮とコスト削減に貢献しております。

本年3月のビジネス開始以来、着実に実績を上げてきております。

将来の予測に関する注意事項：

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、若しくは不確定な要因により大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

(機関投資家 対応)

経営企画本部 企画部 Tel : 03-5221-7117

E-mail: smb002@jp.seika.com

(個人株主 対応)

管理本部 総務・人事部 Tel : 03-5221-7101



以上をもちまして、2022年3月期 第2四半期の決算説明を終了させていただきます。

株主・投資家の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本決算説明につきまして、ご質問がございましたら、機関投資家の方々は当社企画部が、個人株主の皆様方は当社総務・人事部が対応致しますので、それぞれお問い合わせ頂きますよう 宜しくお願い致します。

この度は、ご視聴誠にありがとうございました。

以上